

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 958 号	氏名	Ganchimeg Bayarsaikhan
学位審査委員	主 査	平山 謙二	
	副 査	西田 教行	
	副 査	金子 修	
論文審査の結果の要旨			
<p>1 研究目的の評価 本研究は、脳性マラリアのマウスモデルである <i>Plasmodium berghei</i> 感染 C57BL/6 マウスを用いて病態と関連する CD8 陽性 T 細胞活性化機構を解明しようとしたもので、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 卵白アルブミン (OVA) 特異的 T 細胞レセプター遺伝子導入マウスに、OVA 遺伝子導入 <i>P. berghei</i> あるいは <i>Listeria monocytogenes</i> を感染させ、経時的に脾臓の白脾髄、赤脾髄、境界領域における抗原特異的 T 細胞動態を免疫染色により解析したもので、研究手法は妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 <i>P. berghei</i> 感染では <i>L. monocytogenes</i> 感染と異なり、原虫血症出現後、活性化 CD8 陽性 T 細胞が白脾髄から赤脾髄に移動し、抑制性機序によりアポトーシスや免疫虚脱に陥ることが観察されたが、その解析手法は妥当である。<i>P. berghei</i> 感染における赤脾髄での特徴的な T 細胞活性化機構の存在を指摘した考察も妥当である。</p> <p>以上のように本論文は感染免疫学研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士 (医学) の学位に値するものと判断した。</p>			